

テーマ
未来のために

〜今の私達にできること〜

発行日
8月26日
発行所(氏名)
王子桜学校
中学2年生
生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

小学校の時に先生が、都内で三十年以内に大まな地震が起こる確率は七十％と言っていました。それから何年か経ち、まだ地震が発生していないということ。これからのいつ起きてもおかしくない状況である。改めると実感しました。そんな時、新聞を読んでみると、首都直下地震の死者想定数や負傷者数が書かれている記事を見つけ、首都直下地震について知ることによって役に立つかもしれないと思ったからです。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 首都直下地震が起きた場合、体が不自由な高齢者などの「要配慮者」が死者数全体の六割超に上ると想定されていました。また、建物の耐震化、不燃化が進んでこそ、十年前に想定された東京湾北部地震より、死者と負傷者が少なくなっていました。死者数は阪神淡路大震災級であることがわかりました。

②について 東京防災会議は、首都直下地震の被害想定の中に、地震発生後に考えられる事象を具体的に示した。災害シナリオを盛り込みました。しかし、災害シナリオはデータ分析に基づいておらず、基本はデータを基に研究を進めていますが、データのみ想定では被害の過小評価につながる恐れが高い」ということでシナリオを立派にしたことがわかりました。

①②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

①では首都直下地震の被害想定について詳しく書かれており、②では災害シナリオがさまざまな経緯が書かれていました。どちらの記事にも「災害シナリオ」というキーワードが書かれていたので、災害シナリオについてインターネットを使って詳しく調べてみたいのです。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

災害シナリオについて調べてみたところ、現代の私達には必要不可欠なスマートフォンが地震発生一日後までに充電が切れてしまい、連絡がとれなくなってしまうことがわかりました。また、災害での死者では多く避難所等の慣れない環境での生活により、高齢者や既往症を持つ人などの症状が悪化し、死亡するケースがあることもわかりました。地震をなくす、というよりは勿論できません。しかし、被害を少しでも減らしていくということは今私達にもできます。地震発生後、スマートフォンが使えなくなった状況で、どう行動すればいいのか等を家族と事前に話し合っておきたいと思えます。また、死者数や全体の六割超は体の不自由な高齢者等の「要配慮者」と想定されていますが、私の家族にも体の不自由な姉がいます。私にたいに普通に歩いたり、走ったりすることができません。避難には必ず誰かの手助けが必要です。だから、要配慮者の死者数を減らすには、地域の方や身近な人が連携して普段から手助けをしてあげるといった配慮が必要だと思いました。しかし、一部の人が連携をしても火山の人の命を救うことができないので、町内の掲示物にイラストを貼ったり、人目のつくところにポスターを貼って見てもらうことで、日常から意識できるのではないかと考えました。私も普段からこの課題について考えていきたいです。